

想像していた以上に…

副会長 菅沼 真 (50 期)

主な担当業務：紛議調停、任官、研修、高齢者・障害者、住宅紛争、外国人、図書館、市民会議、子どもの人権、照会請求、税務、リーガルアクセスセンター、弁護士法人、健保組合、国民年金、日弁連法務研究財団 等



今日は、この原稿の締切日である8月15日。いつもより人気の少ない静かな役員室で、時計の針を気にしながら、原稿を書き始めたところである。

何を書こうか思案していたが、副会長に就任して4ヶ月半を経過したので、就任前に想像していたこと以上だったことについて記してみたい。

想像以上に素晴らしかった「もがれた翼」

まずは、8月9日と10日の2日間にわたって3回の公演が行われた「もがれた翼」を挙げなければならないであろう。言わずと知れた、子どもの人権と少年法に関する特別委員会（以下「子どもの委員会」という）制作のお芝居であるが、子どもの委員会担当であること抜きに、実に素晴らしかった。

今回のテーマは、外国にルーツを持つ子どもだったのであるが、今まさに社会問題になっていることをテーマに取り上げたい。演技も演出も完成度が高く、子どもの苦悩が見事に表現されていたように思う。

私は初日のゲネプロ（最終リハーサル）と2日目の夕方の部を鑑賞したのであるが、1回目は、途中からハンカチを手放せなくなってしまった。2回目は大丈夫だろうと思っていたが、またしても涙腺が緩み、隣に子どもの委員会の福田笑美委員長が座っていたこともあり、涙を堪えるのに必死であった。

想像以上に忙しい毎日

副会長になれば忙しいことは覚悟していたが、実際の忙しさは想像以上であった。副会長の業務は、理事会、常議員会、担当している委員会等の会議と決裁業務がメインであるが、その他にも、担当している委員会等の関係で、担当職員が訪ねてきたり、電話が

かかってくるので、常に対応に追われた状態にある。

その中でも、決裁業務は膨大な数と量があり、油断しているとあっという間にたまってしまう。短時間で要領よくできればよいのであるが、そのようなことが苦手な私は、自分にとっては悪夢とも言うべき旧司法試験の択一試験を思い出してしまった。最終的に択一試験は、あえて「捨て問」を作ることで何とかクリアしたが、決裁業務には、もちろん「捨て問」などないので、人より時間をかけて何とかこなしている。

想像以上に腰が…

座っている時間が長いからか、ぎっくり腰になってしまった。10数年前に初めてやって以来、何回か繰り返しているが、7月に久々に再発し、ようやく良くなったと思った8月初旬にまた症状が出てしまった。

これには本当に困っている。ちなみに、腰部にコルセットを巻いているので、小用を足すにも個室に入る必要があり、ビリッ、ビリッと音を立てているが、決して怪しいことをしているわけではないので、気にしないでいただければ。

想像以上に居心地の良い役員室

役員の中には、就任前は面識のない人もいたが、今では、言うべきことは言い、他方で、まとまるべき時はまとまることができている。

そして、秘書課をはじめとする職員の皆さんのさりげない気遣いや諸先輩方からの差入れ等もあって、役員室は快適で居心地の良いものになっている。おかげで、日に日に役員室にいる時間が長くなっており、それが腰にさらに負担を与えているような気がするのだ。